

障害種別	主なニーズ・課題	論点例
障害種共通	<p>【学習プログラム・実施体制等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校で身に付き維持していた能力も、卒業後の就労・福祉の場で求められず、できなくなる。継続できる学びの場が必要。 ○卒業して直面することは多く、ライフステージに応じた学びが必要。 ○就労や生活の場で活用できるプログラムが必要。 ○学びの場がある場合も、参加者の高齢化、スタッフやボランティアの不足等の課題を抱える。 <p>【一般の学習活動への参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障害者差別解消法の理解は、なかなか進んでいない状況。 ○社会に存在する環境、意識、情報のバリアの解消が必要。 ○障害の理解の促進や合理的配慮の対応が必要。 <p>【基盤整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相談の場が不足(どこに相談して良いか分からない)、情報を入手することが難しい、分かりやすい情報提供も必要。 ○2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、障害者のスポーツや文化芸術の取組を生涯学習が支え、学びの中に入れてほしい。 ○障害者の生涯学習を総合的に統括する拠点が必要。現状把握、実施内容の策定、関係者との連携による活動の実施。 	<p>【学習プログラム・実施体制等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校から社会への移行期や生涯の各ライフステージにおいて、どのようなプログラムが求められるか。 ○多様な主体の強みを生かした効果的な実施体制として、どのような体制が求められるか。 (指導者・コーディネーター、ボランティアの確保・育成を含む。) ○障害福祉サービス等との連携をどのように構築・強化するか。 <p>【一般の学習活動への参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」等を踏まえ、合理的配慮に関わる物理的環境、人的支援、意思疎通について、どのような工夫が求められるか。 ○障害福祉サービス等との連携をどのように構築・強化するか。 <p>【基盤整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当事者のニーズの把握や相談への対応、情報収集・提供について、どのような工夫が求められるか。 ○地方公共団体において、生涯学習、教育、スポーツ、文化、福祉、労働等の関係部局が連携した推進体制を構築するため、どのような取組が求められるか。 ○都道府県・市町村、特別支援学校、大学、社会福祉法人、NPO法人、企業等において、どのような役割が求められるか。

これまでのヒアリング等で示された主なニーズ・課題と論点例 <ポイント>

障害種別	主なニーズ・課題	論点例
主に知的障害	<p>【学習プログラム・実施体制等】 <学校から社会への移行期> ○特別支援学校卒業後すぐに社会に出るが、18～20歳ぐらいの間にもう少し学ぶことができれば、非常に変わってくる。(大学等の進学率は8割近いが、高等部卒業生には社会体験や学習の場がほとんどない。) ○自立訓練事業等を活用した学びの場の取組が増加傾向。ニーズが多様化し、期間も2年から3～4年と長期化傾向。 ○仕事への適応やコミュニケーション等への不安に対応し、卒業後3年程度、特別支援学校でアフターフォローとして学びの場を提供する例がある。その後のスキルアップや就労継続支援は、企業等につなげる必要。 <生涯の各ライフステージ> ○オープンカレッジ東京では、各ライフステージのニーズ・課題調査に基づき、学習内容を「学ぶ・楽しむ」「くらす」「はたらく」「かかわる」の4領域で構成。自己決定のための問題解決能力獲得が課題。 ○離職は大半が人間関係に起因。地域で仲間と過ごせる場所等で、自分を自由に出し合うことで、仕事を頑張り継続することができる。 ○青年学級での学習を希望する障害者数が増加する一方、障害の多様化や参加者が高齢化、スタッフやボランティアが不足。</p> <p>【一般の学習活動への参加】 ○一般的な学習活動への参加は進んでいない。要因は、誤解や偏見が根強くあること、活動への参加が難しいことなど。</p>	<p>【学習プログラム・実施体制等】 <学校から社会への移行期> ○特別支援学校卒業直後の学びの場として、どのようなプログラムや体制等が求められるか。</p> <p>○自立訓練事業等の効果的な活用など、障害福祉サービス等との連携をどのように構築・強化するか。</p> <p><生涯の各ライフステージ> ○知的障害者のライフステージに応じて、どのようなプログラムや体制等が求められるか。</p> <p>○地域生活支援事業等の効果的な活用など、障害福祉サービス等との連携をどのように構築・強化するか。</p> <p>【一般の学習活動への参加】 ○障害の理解促進(意識改革等)、参加への合理的配慮のため、どのような取組が求められるか。</p>
主に発達障害	<p>【学習プログラム・実施体制等】 <学校から社会への移行期> ○就労・自立の基盤として、自己表現し、自分や社会のことを知る機会の提供が必要。多様な就労や生活の選択肢を想定した内容や支援が必要。 <生涯の各ライフステージ> ○対人交流や社会参加のきっかけ、意欲につながる内容の提供が必要。 ○特性が類似する者同士が支え合う「ピアサポート」が有効。</p> <p>【一般の学習活動への参加】 ○合理的配慮、アクセシビリティについて、調査や事例集でも、発達障害の知見が少なく、対応が遅れている。</p>	<p>【学習プログラム・実施体制等】 ○発達障害者のニーズに対応したプログラム・実施体制(ピアサポートを含む)等について、どのような工夫が求められるか。</p> <p>【一般の学習活動への参加】 ○発達障害者のニーズに対応して、合理的配慮として、どのような工夫が求められるか。</p>

これまでのヒアリング等で示された主なニーズ・課題と論点例 <ポイント>

障害種別	主なニーズ・課題	論点例
主に身体障害	<p>【一般の学習活動への参加】</p> <p>○社会に存在する「環境」「意識」「情報」のバリアを解消する必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境: 車椅子等に対応した施設設備、施設の往復、災害時対応等 ・意識: 講座の参加の拒否、移動時のサポートが得られない等 ・情報: 情報保障(手話、点字等)が不十分等 	<p>○身体障害者のニーズに対応して、合理的配慮に関わる物理的環境、人的支援、意思疎通について、どのような工夫が求められるか。</p>
主に視覚障害	<p>【学習プログラム・実施体制】</p> <p>○施設内の行事参加、学校時代の同窓会、親の会・青年学級等について、保護者や元教員の高齢化に伴い、活動範囲が縮小傾向。</p> <p>○自立して生きるため、①歩行能力、②基礎的なICTスキル、③コミュニケーションスキルを身に付ける必要。</p> <p>【一般の学習活動への参加】</p> <p>○スポーツジムの入会拒否、映画バリアフリー化の不備、語学教室での配慮の不徹底。情報保障が不十分。</p> <p>○中途失明の者は、日々見え方が異なる等の体調面の不安を抱える者が多く、周囲の理解と合理的配慮が必要。</p>	<p>【学習プログラム・実施体制等】</p> <p>○視覚障害者のニーズに対応したプログラム・実施体制等について、受障時期による相違にも留意しつつ、どのような工夫が求められるか。</p> <p>【一般の学習活動への参加】</p> <p>○視覚障害者のニーズに対応して、合理的配慮に関わる物理的環境、人的支援、意思疎通(点字等)について、どのような工夫が求められるか。</p>
主に聴覚障害	<p>【学習プログラム・実施体制】</p> <p>○直面する障壁や配慮について意思表示する実践、ICTの活用、日本手話や視覚活用により文化芸術活動に触れる機会などのプログラムが必要。</p> <p style="padding-left: 20px;">※先天性聴覚障害: 日本語(読み書き)と意思疎通の方法等 中途失聴者: 社会資源(福祉サービス等)・コミュニケーション等</p> <p>【一般の学習活動への参加】</p> <p>○意思疎通支援事業(手話通訳・要約筆記)の制限や地域差の解消。</p> <p>○主催者による通訳サービスや音声認識アプリなどの積極的活用、台本や進行シナリオ等の貸出、通訳への事前情報提供等</p>	<p>【学習プログラム・実施体制等】</p> <p>○聴覚障害者のニーズに対応したプログラム・実施体制等について、受障時期による相違にも留意しつつ、どのような工夫が求められるか。</p> <p>【一般の学習活動への参加】</p> <p>○聴覚障害者のニーズに対応して、合理的配慮に関わる物理的環境、人的支援、意思疎通(手話、要約筆記等)について、どのような工夫が求められるか。</p>

※盲ろう者のニーズについては、地域格差の解消、サービス・社会資源の活用、福祉・教育の充実等のあらゆる面での取組について考えていく必要。

(注) 重度障害等については、6月14日(木)の有識者会議のヒアリングの内容等も踏まえ整理。

※下記の区分は相対的なものであり、相互に重複することもあり得る。

※特別支援学校等でのキャリア教育の取組も踏まえ、障害者の生涯を通じて、キャリア発達を促進することも重視する。

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

- ・学校段階で身に付けた資質・能力の維持・開発に関する活動
- ・主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動
- ・自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習
- ・社会体験や生活体験、農業体験
- ・就業体験、職場実習 など

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○個人の生活に必要な知識・スキル

- ・健康の維持・増進
- ・適切な食生活
- ・家庭生活や結婚生活
- ・防災、防犯
- ・ITスキル、情報モラル
- ・家族の介護 など

○社会生活に必要な知識・スキル

- ・金銭管理、契約
- ・資格や免許に関すること
- ・公共施設等の社会資源の利用
- ・税に関すること
- ・社会保障(年金・保険等)
- ・住民サービス
- ・政治参加
- ・裁判や司法参加
- ・労働法規
- ・地域活動、ボランティア活動
- ・集団生活でのルール、マナー
- ・ストレスマネジメント など

○職業において必要な知識・スキル

- ・仕事に関係のある知識の習得や資格の取得
- ・就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得 など

【視点1】【視点2】に共通して、生涯を通じて必要な内容

○自立して生きる基盤となる力に関すること

- ・人と関わる力(例:コミュニケーション能力等)に関わる活動
- ・主体性をもって物事に取り組む意欲、やり遂げる力に関わる活動 など

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、教養に関すること

- ・スポーツ活動(「する」「みる」「ささえる」を含む)
- ・文化芸術活動(例:鑑賞、自己表現等)
- ・文学や歴史、自然科学などに関する学習活動
- ・時事問題や社会問題等に関する学習活動 など